

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-326662

(P2000-326662A)

(43) 公開日 平成12年11月28日 (2000. 11. 28)

(51) Int.Cl.⁷

B 4 2 D 15/02

識別記号

5 0 1

F I

B 4 2 D 15/02

テームコード* (参考)

5 0 1 B 2 C 0 0 5

5 0 1 Z

G 0 9 F 1/04

G 0 9 F 1/04

A

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号

特願平11-138116

(22) 出願日

平成11年5月19日 (1999. 5. 19)

(71) 出願人

000162113

共同印刷株式会社

東京都文京区小石川4丁目14番12号

(72) 発明者

岡村 昌太郎

東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同

印刷株式会社内

(72) 発明者

星野 角栄

東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同

印刷株式会社内

(74) 代理人

100096828

弁理士 渡辺 敬介 (外1名)

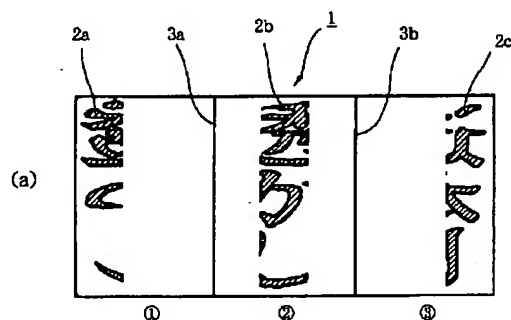
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 透かし入り圧着葉書

(57) 【要約】

【課題】 コピーや印刷による偽造を防止できる圧着葉書を提供する。

【解決手段】 折線3a, 3bにより連接された折り片部分①～③を有する圧着葉書に、折り畳んだ状態で一つの絵柄を構成する透かし部2a～2cを設けたことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 折線により連接された複数の折り片部分を折り畳んで圧着される圧着葉書において、一部に透かし部を設けたことを特徴とする透かし入り圧着葉書。

【請求項2】 前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、折り畳んだ状態で一つの絵柄を構成することを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項3】 前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、剥離展開した状態で一つの絵柄を構成することを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項4】 前記透かし部は、二つの折り片部分に跨がって一つの絵柄を構成することを特徴とする請求項3に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項5】 前記透かし部が、互いに圧着される二つの折り片部分に設けられており、該透かし部は、圧着面の一部を剥離展開した状態で該二つの折り片部分に跨がって一つの絵柄を構成することを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項6】 前記透かし部が、互いに圧着される二つの折り片部分に設けられており、該二つの折り片部分の透かし部と非透かし部は、該二つの折り片部分を連接する折線に対して逆対称に配置されていることを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項7】 前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、折り畳んだ状態で重なり合うように配置されていることを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項8】 前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、各折り片部分によって天地方向の位置が僅かにずれた直線状であることを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項9】 前記透かし部が、紙厚の薄い凹陷部からなる白透かし部であることを特徴とする請求項1～8のいずれかに記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項10】 前記透かし部が、紙厚の薄い凹陷部からなる白透かし部と透明化インキを塗布してなる擬似透かし部で構成されていることを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【請求項11】 前記透かし部が、紙厚の薄い凹陷部からなる白透かし部であり、剥離開始部となる折り片部分のコーナー部もしくは端辺部に設けられていることを特徴とする請求項1に記載の透かし入り圧着葉書。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、感圧接着剤が塗布された用紙を折り畳んで圧着される圧着葉書に関し、特に透かしを有する圧着葉書に関する。

【0002】

【従来の技術】 圧着葉書は、全面に感圧型接着剤（接着条件120～150kg/cm²程度）を塗布した用紙に印字等をした後、印字部分を内側にして折り畳んで圧着される。

【0003】 また、かかる圧着葉書は親展用として多く使用されているため、偽造防止手段を施すことが多く、従来、この偽造防止手段として印影模様や地紋の印刷を施すのが一般的であった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の圧着葉書では以下のような問題点があった。

(1) 従来の偽造防止方法では、複写機によるコピーや簡単な印刷機による印刷で比較的容易に偽造ができる。

(2) 全面に接着剤が塗布されていると剥離しやすく、このためコーナークットを設けたり、端部に剥離剤を塗布するなどしているが、これらの剥離切っ掛け部を設ける作業は煩雑である。

【0005】 本発明の主たる目的は、上記問題点を鑑み、より一層偽造しにくい圧着葉書を提供することにある。

【0006】 また本発明の別の目的は、より簡易な剥離切っ掛け部を有する圧着葉書を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 上記の目的を達成すべく成された本発明の構成は、以下の通りである。

【0008】 すなわち、本発明は、折線により連接された複数の折り片部分を折り畳んで圧着される圧着葉書において、一部に透かし部を設けたことを特徴とする透かし入り圧着葉書に関する。

【0009】 本発明の透かし入り圧着葉書は、さらなる特徴として、「前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、折り畳んだ状態で一つの絵柄を構成する」こと、「前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、剥離展開した状態で一つの絵柄を構成する」こと、「前記透かし部は、二つの折り片部分に跨がって一つの絵柄を構成する」こと、「前記透かし部が、互いに圧着される二つの折り片部分に設けられており、該透かし部は、圧着面の一部を剥離展開した状態で該二つの折り片部分に跨がって一つの絵柄を構成する」こと、「前記透かし部が、互いに圧着される二つの折り片部分に設けられており、該二つの折り片部分の透かし部と非透かし部は、該二つの折り片部分を連接する折線に対して逆対称に配置されている」こと、「前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、折り畳んだ状態で重なり合うように配置されている」こと、「前記透かし部が、少なくとも二つ以上の折り片部分に設けられており、該透かし部は、各折り片部分によって天地方向の位置が僅かにずれ

た直線状である」こと、「前記透かし部が、紙厚の薄い凹陥部からなる白透かし部である」こと、「前記透かし部が、紙厚の薄い凹陥部からなる白透かし部と透明化インキを塗布してなる擬似透かし部で構成されている」こと、を含むものである。

【0010】上記本発明の透かし入り圧着葉書によれば、コピーや印刷等による偽造は不可能となり、また、透かし部にデータが印字される場合には、元のデータ上に他のデータを貼り付け改ざんした場合でも、これを簡単に見つけることができる。

【0011】また、本発明の透かし入り圧着葉書では、前記透かし部を紙厚の薄い凹陥部からなる白透かし部として、該透かし部を剥離開始部となる折り片部分のコーナー部もしくは端辺部に設けることも好ましい。すなわち、このような透かし部は、剥離切っ掛け部としても機能させることができるものである。

【0012】

【発明の実施の形態】本発明の圧着葉書は、通常、用紙の全面に感圧型接着剤が塗布され全面接着される。かかる感圧型接着剤としては、従来公知のものを用いることができ、例えば天然ゴム、又はアクリル共重合体、NBR、SBR等の合成ゴムを主剤とする接着剤を用いることができる。

【0013】本発明の圧着葉書では、透かし部が設けられる。かかる透かし部の形成方法としては従来公知の方法を用いることができ、例えば用紙の抄造時に透かしとなる部分の紙厚を薄くして白透かしとする方法や絵柄等の印刷と同時にワックス等を含む透明化インキを印刷することで用紙の光透過度を高め擬似透かし部とする方法などを用いることができる。

【0014】以下、図面を参照して本発明の圧着葉書の実施形態例を説明するが、言うまでもなく本発明の圧着葉書はこれらの形態例に限定されるものではない。

【0015】図1は、剥離展開した状態（図1（a））では全体像を把握することができないが、折り畳んだ状態（図1（b））で一つの絵柄を構成するように透かし部を設けた例である。

【0016】図1（a）の展開図に示すように、用紙1は、折線3a、3bにより連接された3つの折り片部分①～③からなり、これらの折り片部分①～③には夫々透かし部2a～2cが形成されている。

【0017】本例の圧着葉書では、折り片部分①及び③を折り片部分②の上に折り畳むと、図1（b）に示すように、透かし部2a～2cが1つ絵柄（『透かし』という文字）を構成する透かし部2となる。なお、以下に示す形態例においても同様であるが、複数の透かし部の組み合わせによって構成される上記絵柄は文字に限定されるものではなく、図形、文字と図形の組み合わせ等であってもよい。

【0018】このように本例の透かし部は、折り畳んで

はじめて意味を有する絵柄が構成されると共に、折り畳んで圧着されている状態では透かし部が各折り片部分にどの様に配置されているのか分からず、極めて高い偽造防止効果が得られる。

【0019】図2は、折り畳んだ状態（図2（b））では全体像を把握することができないが、剥離展開した状態（図2（a））で一つの絵柄を構成するように透かし部を設けた例である。

【0020】本例の圧着葉書では、折線3a、3bにより連接された折り片部分①～③に設けられた透かし部2a～2cが、1つ絵柄（『透かし』という文字）を構成している。

【0021】このように本例の透かし部は、剥離展開した状態で一つの意味を有する絵柄が構成されると共に、折り畳んで圧着されている状態では透かし部が各折り片部分にどの様に配置されているのか分からず、極めて高い偽造防止効果が得られる。

【0022】図3は、剥離展開した状態で二つの折り片部分に跨がって一つの絵柄を構成するように透かし部を設けた例である。

【0023】本例の圧着葉書では、折線3bにより連接された折り片部分②及び③に設けられた透かし部2b及び2cが、折り片部分②及び③に跨がって1つ絵柄を構成している。

【0024】このような本例の圧着葉書においても、透かし部による偽造防止効果が得られ、特に往復葉書の返信葉書や、投票連絡票のように切り取った紙片を再度利用するものに適用した際の有効な偽造防止手段となり得る。すなわち、折線3bで切り離した折り片部分③を再度利用する場合、各用紙に設けた透かし部を原本と照合することで折り片部分③の真偽の判定を行うことができる。

【0025】図4は、互いに圧着される二つの折り片部分に、圧着面の一部を剥離展開した状態（図4（b））で二つの折り片部分に跨がって一つの絵柄を構成するように透かし部を設けた例である。

【0026】本例の圧着葉書では、折線3により連接された折り片部分①及び②に設けられた透かし部2a及び2bが、予め決められた方向、長さを剥離した時にのみ折り片部分①及び②に跨がって一つの絵柄（『透』という文字）を構成するため、極めて高い偽造防止効果が得られる。

【0027】図5は、互いに圧着される折り片部分②と③に、これらを連接する折線3bに対して逆対称となるように透かし部と非透かし部を設けた例である。

【0028】本例の圧着葉書では、折り畳んだ状態で、折り片部分②の透かし部2bが折り片部分③の非透かし部に重なり、折り片部分②の非透かし部が折り片部分③の透かし部2cに重なるため、折り畳んだ状態では透かしの有無は判別できず、極めて高い偽造防止効果が得ら

れる。また、透かし部の存在による圧着強度のムラも生じない。

【0029】図6は、折り片部分①～③に、折り畳んだ状態で重なり合うような透かし部2a～2cを設けた例である。

【0030】圧着葉書を例えば三つ折り以上にすると、透かし部と非透かし部との光透過度の差を認めにくくなり、透かしの有無が視認しづらくなる。しかしながら、本例の圧着葉書のように、折り畳んだ状態で各折り片部分の透かし部が重なり合うようにすることにより、折り畳んだ状態での透かし部と非透かし部の光透過度の差を高めることができ、透かし部の存在を視認でき、容易に真偽の判定を行うことができる。

【0031】図7は、折り片部分①～③に、天地方向の位置が僅かにずれた直線状の透かし部2a～2cを設けた例である。

【0032】本例の圧着葉書では、各折り片部分に僅かにずれた直線状の透かし部を形成しているため、各透かし部の位置ずれが視認しづらく、極めて高い偽造防止効果が得られる。

【0033】図8は、透かし部として、紙厚の薄い凹陥部からなる白透かし部と、ワックス等を含む透明化インキを印刷して用紙の光透過度を高めた擬似透かし部の2種類の透かしを設けた例である。

【0034】本例の圧着葉書では、折り片部分③に白透かし部4と擬似透かし部5の2種類の透かしを併用しているため、透かし自体の偽造が困難であり、極めて高い偽造防止効果が得られる。

【0035】図9及び図10は、剥離開始部となる折り片部分の端辺部もしくはコーナー部に、紙厚の薄い凹陥部からなる白透かし部を設けた例である。

【0036】図9は二つ折りの圧着葉書であり、折り片部分②の端辺部に白透かし部4が設けられている。また、図10は三つ折りの圧着葉書であり、折り片部分①及び③のコーナー部に夫々白透かし部4が設けられている。

【0037】凹陥部からなる白透かし部4では対向面との接着強度が若干弱くなるため、剥離展開する際、この端辺部もしくはコーナー部の白透かし部4を剥離切っ掛け部とすることができる。例えば図10において折り片部分①を折り片部分②上に折り畳み、さらにこの上に折り片部分③を折り畳んで圧着した場合には、先ず折り片部分③に設けられた白透かし部を切っ掛けにして折り片部分③を剥離展開し、次に折り片部分①に設けられた白透かし部を切っ掛けにして折り片部分①を剥離展開することにより、圧着葉書を容易に剥離展開することができる。

【0038】このように本例の圧着葉書では、偽造防止用の透かし部を剥離切っ掛け部としても活用でき、従来のような剥離切っ掛け部を設ける煩雑な作業を省略する

ことができる。

【0039】

【発明の効果】本発明の圧着葉書は、以上説明した通りのものであり、次の効果を奏するものである。

【0040】(1) コピーや印刷等による偽造は不可能となり、また、透かし部にデータが印字される場合には、元のデータ上に他のデータを貼り付け改ざんした場合でもこれを簡単に見つけることができる。

【0041】(2) 透かし部の形態として、折り畳んだ状態もしくは剥離展開した状態でのみ一つの絵柄を構成するようにしたり、複数の折り片部分に跨がって1つ絵柄を構成するようにしたり、各折り片部分において天地方向の位置が僅かにずれた直線状のものとしたり、白透かし部と擬似透かし部の2種類の透かしを併用した場合には、より一層高い偽造防止効果が得られる。

【0042】(3) 互いに圧着される折り片部分に、これらを連接する折線に対して逆対称となるように透かし部と非透かし部を設けた場合には、折り畳んだ状態では透かしの有無は判別できず、極めて高い偽造防止効果が得られると共に、透かし部の存在による圧着強度のムラも生じない。

【0043】(4) 折り畳んだ状態で重なり合うような透かし部を設けた場合には、特に三つ折り以上とした場合にも透かし部の存在を視認でき、容易に真偽の判定を行うことができる。

【0044】(5) 剥離開始部となる折り片部分の端辺部もしくはコーナー部に白透かし部を設けた場合には、この白透かし部を剥離切っ掛け部としても活用でき、従来のような剥離切っ掛け部を設ける煩雑な作業を省略することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る透かし入り圧着葉書の一例であり、(a)は展開図、(b)は葉書状に密着した状態を示す図である。

【図2】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例であり、(a)は展開図、(b)は葉書状に密着した状態を示す図である。

【図3】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例を示す展開図である。

【図4】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例であり、(a)は展開図、(b)は葉書状に密着した状態を示す図である。

【図5】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例を示す展開図である。

【図6】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例を示す展開図である。

【図7】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例を示す展開図である。

【図8】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例を示す展開図である。

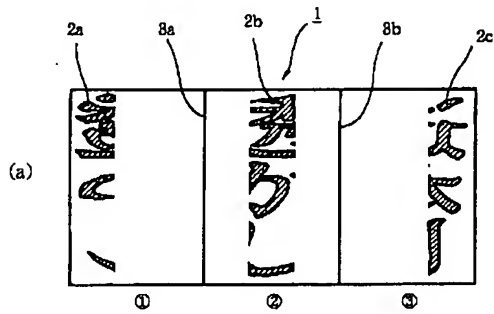
【図9】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例を示す展開図である。

【図10】本発明に係る透かし入り圧着葉書の別の例を示す展開図である。

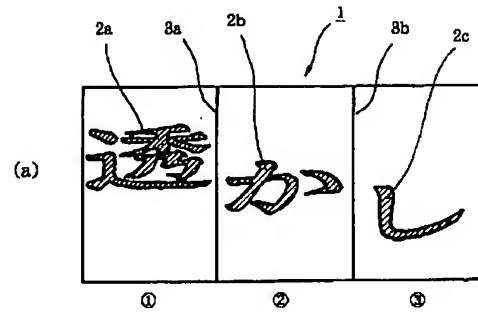
【符号の説明】

- 1 感圧接着剤が塗布された用紙
- 2, 2a, 2b, 2c 透かし部
- 3, 3a, 3b 折線
- 4 白透かし部
- 5 擬似透かし部

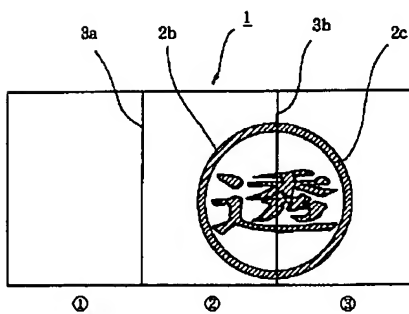
【図1】



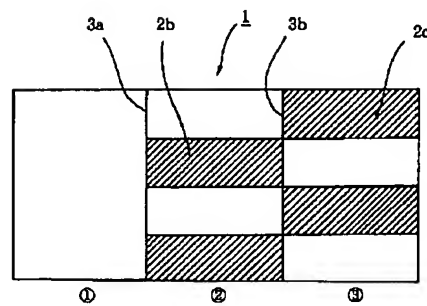
【図2】



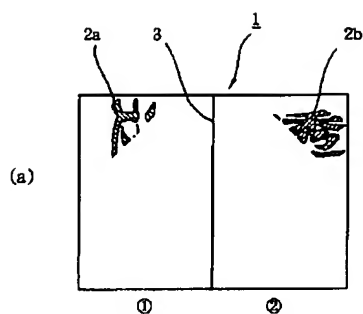
【図3】



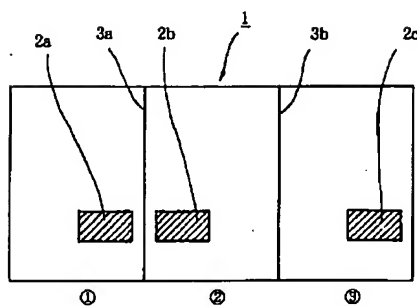
【図5】



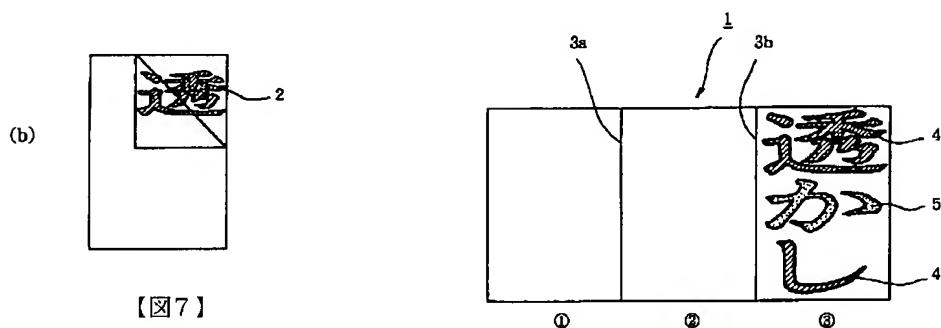
【図4】



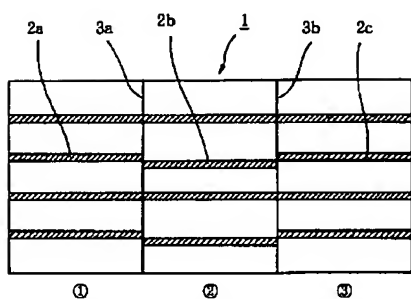
【図6】



【図8】

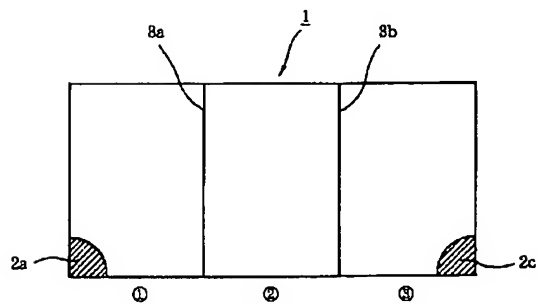
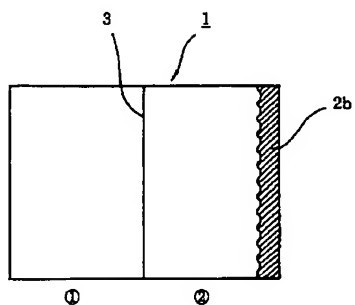


【図7】



【図9】

【図10】



フロントページの続き

(72)発明者 長澤 秀雄
東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同
印刷株式会社内
(72)発明者 中村 昌和
東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同
印刷株式会社内
(72)発明者 粥川 哲
東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同
印刷株式会社内

(72)発明者 守舎 雅敏
東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同
印刷株式会社内
(72)発明者 久保 さおり
東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同
印刷株式会社内
(72)発明者 恩田 正道
東京都文京区小石川4丁目14番12号 共同
印刷株式会社内

Fターム(参考) 2C005 WA02 WA15